のこり香の蒔きかた

拝啓　おじいちゃん、おばあちゃん

大人になり、せわしなく都会で過ごす私。
ふとした時に、田舎でみかん農家をしていた
祖父母と過ごした生活を思い出す。

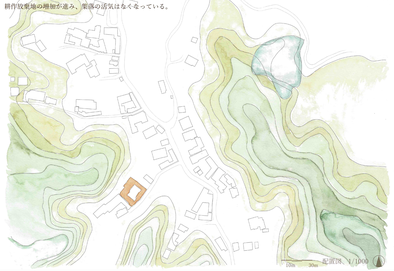
おばあちゃんと山菜を取りに山へ探検
冬には親戚が集まってみかん狩り
いつまでも終わらないおばあちゃんの井戸端会議
遊びの可能性が詰まった広い中庭
みかんの木の下でしたピクニック
誰も来ないハナレはただ子供たちだけの秘密基地

一見都会は豊かに見えるが、
四季の変化を見せてくれる自然は奥深く、
私の自由でわがままな暮らしを許してくれる。

空っぽになった祖父母の家、荒れた畑
大人になり希薄になったこの町との距離を、
思い出と生活の“のこり香”が宿り続ける
この家を介してなら
再構築していける気がする。

01. 愛知県知多半島美浜町内扇

設計敷地は愛知県の小さな集落にある祖父母の家。ここは半島に位置し、海にも山にもすぐ出会える自然に囲まれた地域。1年中を通して温暖な気候で雨量も少なく、稲作・みかん産業が盛んにおこなわれてきた。都心から車で1時間ほどの身近な田舎ではあるが、少子高齢化・耕作放棄地の増加が進み、賑わう活気はなくなっている。



配置図　1/1000

02. かつての内扇でのくらし

「昔は公会堂でみんな集まってご飯食べたりしょったんよ。そこで畑のことも共有したりして。」
「この10年で農業はもう変わっちゃったわ。どんどん百姓も減っていっとるわ。」

生涯をこの町で過ごす祖父は、最近のまちの様子を寂しそうに声をもらす。
かつてこの町は、農業を介して、ものや時間の繋がりがゆっくり流れていた。

「今年はよく育ったわ～」と育てている野菜をご近所さんと交換したり。使わなくなった農業の道具を新しく農業を始める人に譲ったり。
まちを歩けば、玄関先で梅干を干しているおばあちゃん。いろんな場所で生活の様子が垣間見えていた。

今、見えてくるのは荒れた耕作放棄地、放置されて倒壊した小屋。祖父のもとに遊びに行くたびに、まちの変化に感じ寂しさを覚える。

03. 思い出の家

築１００年を超えるハナレは、かつて子供部屋として使ってきたが今はすべてが物置と化した。戦後から続けてきた祖父母のみかん畑は、祖母の他界をきっかけに最期を迎えた。
みかん畑を久しぶりに訪れた時、畑は荒れ果て、中に入ることすらできなくなっていた。風景が変わってしまうことは、こんなにも悲しいことなのかとショックを受けた。
そして、祖父母が住んでいた家もいずれは空き家となる。
家が取り壊され思い出の痕跡がなくなった時、私の思い出は行き場をなくし迷子になってしまうのではないか。

□既存建物平面　－家を巡り、思い出を拾い上げる－

a. おじいちゃんの農業道具倉庫
作業に使う道具がたくさん並んでいた

b. みかんの貯蔵庫
収穫後、選果を手伝った

c. 洗濯・トイレ、生活の動線が外に
飛び出していた

d. 遊んでいるのをおばあちゃんが
見守ってくれた長い縁側

e. 窓の外をながめながらお菓子を作った
キッチン

f. みんなで囲んだ食卓
窓からは裏山が見え、木葉の移り変わりが
楽しめる

g. 使っていないハナレは私の秘密基地
になっていた

h. おじいちゃんが作ってくれたブランコ

i. 危ないと言われてはいたけど、
気になって覗いてみた井戸

既存１階平面図　1/100

□この家に根づいた空間

01. 取りつける

倉庫の壁に棚を取り付けた。
便利な場所に棚が増えていく。
身体スケールになじんだ空間
が作られていく。

02. つるす

柱や梁に、竹を下げやひもを
くくる。物干し竿になり、
梅干の干し場所となる。天気
に合わせて変え、自然と
生活をしていた。

03. 重ねる

コンテナを積み踏み台にした。
子供にとって、机やイスに
なったり、遊び場となった。

04. 飾る

取り付けた棚には、祖母の
ガーデニングの花が
飾られた。季節の花は
変化し、暮は彩られていた。

05. 隠す

ハナレのカーテン。ここは
秘密基地だった。カーテン
越しには、作業すら祖父母。
隠れてるけど人がいると
いう安心感が心地よかった。

06. つなげる

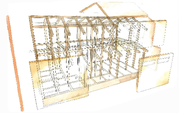
祖父がけけ足した屋根。
手作りの屋根は日向ぼっこ
をしたり雨の日の遊び場
となったり、内と外を繋ぐ
空間となる。

04. 計画・設計手法

かつての田舎での暮らしを理想とする私は、仕事をしながらこの家に家族とともに移住することを決める。移住するにあたって、壁にかこまれ閉鎖的なもとの家に、改築・減築の操作を加える。
この家の暮らしや生業に密接に結びついて根付いた感覚やふるまい・祖父母の様々な経験や知恵を媒介として、自分と他者が共有していく空間を作り出す。

ここで作り出された空間は、この空間を共有する者たちの暮らしや知恵でさらに彩られ、この先を創造していく。

1　既存の木造軸組みを活かす
木造軸体の多くの部分を再利用する。外装を
新しく覆い、既存軸体を含む内部空間を造る
ことで、この家に紡がれてきた歴史を内包する。



2　要素の引き算をする
現状をさえぎる壁、使われていないった二間、
使用空間の価値を見極め、家に残る空間の
なかで余分な要素を引き算する。

3　敷地に風を通す
使われていないモノクロの建物を町に
開き、新しい風を通す。重たい壁に
変わり、「カーテン」を反映させ、
視覚的な風を表現する。

4　有機的につなげる
町を歩くと表に滲みだしていた生活。生活
要素が孤立することなく、一連の風景
として緩く有機的につながっていた。
ここに住む私と町の人とが繋がるきっかけ
となる。生活と地域の素材を、中庭を持つ
ロの字型配置の建物に連結させる。

5　思い出の風景を建築に蒔く
生活の記憶は、名前のないような
ささやかな空間と結びつく。
「軒先のひだまり」「季節の花に触れる」
いたって普通のことでも言葉を定着
させると、いろんな空間が見えてくる。

a. 洗濯を干しに二階のテラスへ
生活の動線を外に飛び出させ活動を活き活きさせる

b. おもちゃを自由に広げるロフト
梁に触れ木の温みを感じる

c. おばあちゃんが好きだったガーデニングに囲まれて風を感じる
梁にはブランコをつるす

d. 二階で中庭を眺めながら手作業を行う
風通しのいい場所でくるくる成った梅を干そう

自然の音を聞きながら気まぐれに音楽を。

屋上テラス
物干し
ロフト
洗濯
物置
ハナレ
倉庫
倉庫
倉庫